

！ 補助金のお知らせ

福岡市「生ごみ堆肥化容器購入費」補助金

福岡市は、段ボールコンポスト等の生ごみ堆肥化容器や電動生ごみ処理機の購入費用の一部を補助します。

家庭で使いきれずに余った堆肥は、区役所や市民センターなどに設置している「資源物回収ボックス」で回収し、肥料として調整を行ったあと、一人一花運動に取り組んでいる団体にお渡しして、歩道や公園の花壇などで活用します。



！ ご注意
微生物の働きによって生ごみを分解・堆肥化する製品に限ります。
生ごみを乾燥する製品は対象外です。

申請受付期間: 2023年12月28日(木)まで
※予算がなくなり次第終了 ※対象者や申請方法など、詳細は福岡市ホームページで

！ リンカイプラス

生ごみ処理機「キエーロ」の販売を始めます！

臨海3RステーションのDIY教室でキエーロを作り、使用の実践を行いました。

さらにご要望によりキエーロを製作し、6月中旬(予定)から販売いたします。種類はキエーロ・底なしキエーロ・ミニキエーロの3種類。

この機会に生ごみの堆肥化を始めてみませんか。



※「キエーロ」は松本伸夫氏によって商標登録されています。

！ リンカイからののお知らせ — 「イーコトフェスタ」を開催します

館内外で、暮らしに身近な環境問題を楽しく学習するイベント満載の「イーコトフェスタ」を開催いたします。次回の開催は夏休み。親子で楽しめる体験や陶器市などを企画中です。ご家族での来場をお待ちしております。



イーコトフェスタ
【日時】: 2023年9月10日(日) 10:00~15:00
● 入場無料 ※一部のプログラムは有料(要事前申し込み)



▲3月に開催した「イーコトフェスタ2023春」の様子

！ 臨海3Rステーションの講座・イベント情報は こちらから 青号と赤号を交互に発行！

臨海3Rステーションでは、身近なエコに関する講座やイベントを紹介する「RINKAI NEWS」を毎月発行しています。プリントでの配布の他、公式WEBサイトでも公開しています。ぜひチェックしてみてください！



発行
福岡市 Fukuoka City Seaside 3R Station
臨海3Rステーション
〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭4丁目13番42号
《WEB》 <https://rinkai3r-station.com/>
《TEL》 092-642-4641 《FAX》 092-642-4598
《休館日》 月曜日(祝日の場合は次の平日)、年末年始
《開館時間》 10:00~17:00
《アクセス》 ●地下鉄「貝塚」駅より徒歩約20分
●西鉄バス「リサイクルプラザ前」より徒歩約1分
●西鉄バス「高須磨町」より徒歩約10分



身近な暮らしから「環境」について考える

E-COT

イーコト

福岡市の
リサイクルの
現状は？

09
2023. 夏号
summer

ど
う
な
っ
て
い
く
の
？
プ
ラ
ス
チ
ク
ご
み
は



プラスチック新法とは？

2022年4月に施行された、みんなで「プラスチックは、えらんで、減らして、リサイクル!」に取り組むための法律です。

参考: 環境省「プラスチック資源循環」



リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

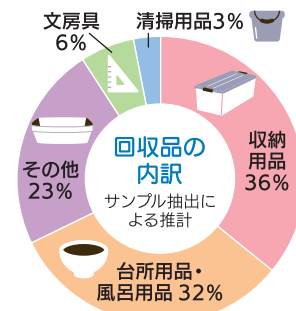


現代のライフスタイルに欠かせない素材・プラスチック。一方、海洋汚染や生態系への悪影響、CO₂排出などのさまざまな環境問題に対応していくには、プラスチックの利用削減とともに、プラスチックの資源循環を加速し、循環型社会を作り上げていくことが必要です。

福岡市では、プラスチックのリサイクルの推進に向けた課題を検証するため、家庭で不要となったプラスチック製品の回収モデル事業を行っています。市内の家庭から出るプラごみは年間約6万トンあり、可燃ごみの約2割を占めています(令和3年度)。プラごみが削減できれば、焼却時のCO₂排出も削減できますね。では回収されたプラごみはいったいどうなるの?その行方を追ってみました。

福岡市のモデル事業で“製品プラスチック”を回収する理由

福岡市のモデル事業で回収しているのは、衣装ケース、プランター、風呂いすなど、製品そのものがプラスチックでできている“製品プラスチック”です。トレイやお菓子の袋といった容器包装プラスチックと比べ、製品プラスチックを回収している自治体は少数で、リサイクル効果を確認する十分なデータがありませんでした。

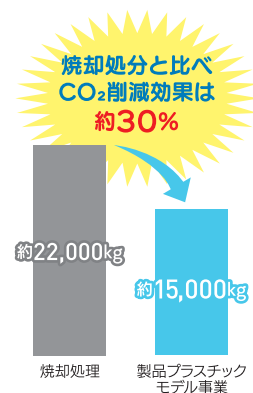


福岡市では令和4年から、リサイクル効果を検証する目的で製品プラスチックの回収を開始。令和4年度には12tの製品プラスチックを回収し、そのうち約70%をプラスチック原料に再資源化した(容器包装プラスチックの一般的なリサイクル率は約50%)。令和5年度も事業を継続しています。

どうしてプラごみの再資源化が重要なのか?

焼却時に排出されるCO₂の量は燃やす素材によって異なります。プラスチックは石油を原料としているため、紙や木材といったほかの素材を燃やすときよりもCO₂排出量が格段に多いです。逆に言えば、プラごみの焼却を減らすことはCO₂排出量の抑制にとっても効果的。

福岡市では「2040年度温室効果ガス排出量実質ゼロ」のチャレンジを掲げています(国の目標は2050年度まで)。この実現を見据え、今後、プラごみの戸別収集モデル事業も実施予定です。



明日からできるActivity

えらんで

エコなプラスチック製品をえらぼう

減らして

使い捨てプラスチックのごみを減らそう

リサイクル

プラスチック製品は分別してリサイクルに協力しよう



プラスチックを一切使わない生活をするのは難しいけど、私たちに今できることはいっぱい。プラスチックの代わりに環境にやさしい素材を選ぶ、植物由来や、自然の中で分解されるプラスチック製品を選ぶ、容器持参などで使い捨てのプラごみを減らす、プラごみは分別してリサイクル…合言葉は「3R+Renewable(再生可能)」です!

プラスチックリサイクルのしくみ

回収した“製品プラスチック”の行方を追跡

回収した製品プラスチックは福岡市内の工場ブロック状に圧縮処理されます。製品プラスチックは軽い一方で体積が大きく、そのままの形ではトラックで運びにくいからです。

その後、製品プラスチックは熊本市内のリサイクル工場に運ばれ、選別、洗浄、フレーク化の処理を行います。プラスチックとは石油を原料に人工的に作られた合成樹脂の総称。正確には「ポリプロピレン」「ポリエチレン」「ポリスチレン」など、さまざまな種類があります。工場では、混在しているプラスチックを素材別に分け、再利用しやすくします。

赤外線と比重分離で細かく選別

まず、赤外線を用いた「光学式選別機」で選別。赤外線をプラスチックに当て、跳ね返ってくる光の波長の違いを利用して素材別に分けま。

1度目の選別を終えた製品プラスチックをフレーク状に砕いた後「比重分離機」で2度目の選別と洗浄を行います。比重分離とは、素材によって密度が違うことを利用し、液体に入れて浮かぶか沈むかで選別する方法です。

生まれ変わるプラスチック

2度の選別工程を経たフレークを原料として、新たなプラスチック製品が作られます。

福岡市のモデル事業で再資源化したプラスチックフレークの活用法は検討段階。一般的には、擬木やフォークリフトで荷物を運ぶ際に使うパレット、トラックの車止めなど、屋外で使うものや工業製品に生まれ変わることが多いそうです。



回収へのご協力をお願いします

福岡市では、家庭で不要となったプラスチック製品の回収モデル事業を市内9カ所で実施しています(令和6年3月31日まで)。対象はプラスチックのみでできていて、一辺の長さが50cm未満のもの。詳しくは福岡市のWEBサイトを参照ください。



- 台所・風呂用品
 - 清掃用品
 - 文房具
 - 収納用品
 - その他
- 回収対象品の例
- おけ・洗面器など
 - じょうろなど
 - クリアファイルなど
 - ハンガーなど
 - CD・DVD・BDなど(ケース含む)

解決するために、こんなイコーコトが!

01 イコーコト

使い道が限られる“くず米”をアップサイクル 食べられる原料だけで作られた「米ストロー」

福岡市中央区 株式会社UPay

米ストローを環境への意識を変えるきっかけにしたい

形が不ぞろいで使い道が限られる“くず米”とコーンスターチ、水、食料用の着色料を原料に、「飲み物を最後までおいしく飲む」ために機能性を追求して作られた米ストロー。口当たりが良く、力を加えても簡単に折れない耐久性が特徴で、飲む途中でつぶれたりせず、無味無臭なので飲み物の味を損ねる心配がありません。「全てのプラスチックを無くすことは難しいけれど、プラスチック以外のものも選べるように選択肢を増やしていきたい。米ストローが意識を変えるきっかけになればうれしい」と代表の上官ゆいさん(写真)。手に取ると心が浮き立つような色合いは「エコを我慢するものではなく、ファッションや個性として楽しめるように」という思いから始まりました。使用後はコンポストで分解可能。飲食店で使われているほか、九州ヴォイスソラリア店やインキューブ、インターネットでも販売しています。



※2023年6月現在

【お問い合わせ】

福岡市中央区大名2-2-1 MIKIビル7F

☎ 092-724-3128 [HP] <https://www.upay.co.jp/>



02 イコーコト

空き容器を持参してプラパッケージを削減 「パッケージフリーマルシェ」を開催

福岡市東区 ていねいにくらすラボラトリー

マルシェの開催は、友達同士のお裾分けを地域に広げる感覚

月1回、アイランドシティの公民館に集まってごみを減らすアイデアを考えるサークル「ていねいにくらすラボラトリー」が、5月に「パッケージフリーマルシェ」を初開催。調味料などを量り売りし、来場者が持参した容器を使うことでプラパッケージを削減しました。

主宰の河東桂子さんは日頃から友人らとシェアリングを実践。共同購入したり、物を貸し借りしたりして、経済的でごみが減る生活を楽しんでいます。今回のマルシェはその楽しさを地域で共有すべく「友達同士のお裾分けを広げる感覚」で開催されました。

今後も継続したイベントの開催を目指しています。



✉ [e-mail] teinei.life.lab@gmail.com

📷 [Instagram] @teinei_life_laboratory

📌 [Note] https://note.com/circular_fukuoka/

e-mail

Instagram

Note

